

令和5年度初夏展

細川家の茶道具 —千利休と細川三斎—

永青文庫



「細川三斎（忠興）像」（部分）
寛文10年（1670）永青文庫蔵
【展示期間】5/20（土）～6/18（日）

千利休から細川三斎へ、細川家に受け継がれる茶の美とこころ

わび茶の大成者・千利休（1522～1591）は多くの武将と交流し、茶の湯を指南しました。細川家とも関わりが深く、初代藤孝（幽斎、1534～1610）より親交を結び、「利休七哲」の一人に数えられる2代忠興（三斎、1563～1645）は、高弟として利休のわび茶を継承しました。以降、細川家では茶の湯が嗜まれ、永青文庫には大名家伝来の様々な茶道具が所蔵されています。

本展では、千利休が所持していた「唐物尻彫茶入 利休尻ふくら」や「瓢花入 銘顔回」をはじめ、利休と細川三斎ゆかりの名品を中心に、細川家に伝わる茶道具の数々を展覧。近現代の細川家四代（16代護立、17代護貞、当代護熙、護光）が手掛けた茶碗なども紹介し、代々継承されてきた茶の美意識に迫ります。

さらに、2021年に発見された、武将茶人・古田織部（1544～1615）から細川三斎に宛てた貴重な手紙を初公開するほか、今年は細川家にゆかりの深い沢庵宗彭（1573～1645）の生誕450年にあたることから、沢庵の墨蹟を特別に展示します。

■ 開催概要

展覧会名：令和5年度初夏展

細川家の茶道具 —千利休と細川三斎—

会 期：2023年5月20日（土）～7月17日（月・祝） ※会期中、一部展示替があります

※ご来館にあたって事前予約は必要ありませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。

※マスク着用の上、ご来館ください。当館の新型コロナウイルス感染拡大予防対策については、ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、開館時間の変更または臨時休館となる場合がございます。

会 場：永青文庫

開館時間：10：00～16：30（入館は16：00まで）

休 館 日：毎週月曜日（ただし7/17は開館）

入 館 料：一般1000円、シニア（70歳以上）800円、大学・高校生500円

※中学生以下、障害者手帳をご提示の方及びその介助者（1名）は無料。

主 催：永青文庫

特別協力：ホテル椿山荘東京



展示構成

千利休と細川家

千利休（1522～1591）と細川家の関わりは深く、初代藤孝（^{ふじたか}幽齋、1534～1610）より交流があり、
2代忠興（^{ただおき}三齋、1563～1645）は高弟・利休七哲の一人に数えられます。

三齋は利休の茶風を忠実に受け継いだといわれ、細川家には、利休ゆかりの茶道具をはじめ、利休の作風を踏襲した三齋の茶杓や花入、三齋が所持していた茶道具の数々が伝来しました。これらは永青文庫の茶道具コレクションを代表する逸品として、今もなお利休から三齋へ継承された茶の美ところを伝えています。



「瓢花入 銘 顔回」
千利休作 桃山時代（16世紀）
永青文庫蔵



重要美術品
「唐物尻彫茶入 利休尻ふくら」
南宋～元時代（13～14世紀）
永青文庫蔵



「竹二重切花入」
細川三齋作 桃山～江戸時代（16～17世紀）
永青文庫蔵

細川家伝来 茶道具いろいろ

細川家では三齋以降も代々茶の湯が嗜まれ、利休・三齋ゆかりの品々のほかにも数多くの茶道具が伝わりました。本章では、大名家に伝来した多種多様な茶道具から、茶碗、茶杓、釜、水指、薄茶器などを、各道具の解説とともに紹介します。



「筒釜」
大西五郎左衛門作
江戸時代（17世紀）
永青文庫蔵



「黄天目 珠光天目」
元～明時代（14～15世紀）
永青文庫蔵



「呉州染付菱馬水指」
明時代（17世紀）
永青文庫蔵



「茶杓 銘 さかひ」
古田織部作
桃山～江戸時代（16～17世紀）
永青文庫蔵



「円文螺鈿茶器」
桃山～江戸時代（16～17世紀）
永青文庫蔵

近現代細川家 四代が手掛けた茶道具

文武両道を重んじた細川家では、歴代の当主が茶の湯のみならず能楽や和歌など諸芸を嗜み、文化芸術に深く関わってきました。その流れは近代以降も続き、永青文庫の設立者・16代護立（1883～1970）、17代護貞（1912～2005）、当代護熙（1938～）、護光（1972～）それぞれが様々なかたちで活動を行っています。ここでは、近現代の細川家四代が手掛けた茶道具を展示し、現代まで続く細川家の茶の美意識に迫ります。



「鉄絵茶碗 遠山無限碧層々」
細川護立絵付
永青文庫蔵

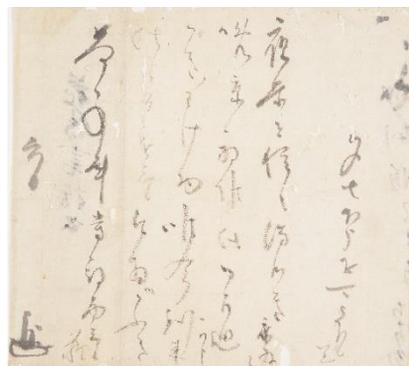


「志野茶盃 忘れ雪」
細川護熙作 平成20年（2008年）
個人蔵

初公開！「花伝書抜書」紙背文書

「花伝書抜書」は、細川忠興（三斎）が写した『風姿花伝』（世阿弥の能楽論書）の一異本として知られています。2021年、東京大学史料編纂所ご協力のもと解体・調査を行ったところ、「花伝書抜書」が古田織部書状などの裏に書かれていることが明らかになりました。

本展では、織部書状のほか、茶の湯に関わる記述が見られる紙背文書を初公開します。



「古田織部書状」
細川忠興（三斎）宛 桃山時代（16世紀）
永青文庫蔵

特別展示 沢庵宗彭の墨蹟

沢庵宗彭（1573～1645）は、京都・大徳寺の住持をつとめた江戸時代前期の禅僧です。紫衣事件により配流となりますが、のちに許され、徳川家光の帰依を受けて品川・東海寺の開山となりました。

細川家では初代藤孝（幽斎）より4代光尚（1619～1649）まで交流があり、特に3代忠利（1586～1641）は沢庵に深く帰依し、没後は沢庵を開山とする肥後の妙解寺（現・北岡自然公園）に葬られました。

2023年は沢庵の生誕450年にあたることから、細川家に縁の深い沢庵の墨蹟を特別展示します。



「放下着」
沢庵宗彭筆 江戸時代（17世紀）
永青文庫蔵



「沢庵宗彭像」
寛永21年（1644）賛
永青文庫蔵



見どころ

◆7年ぶりの茶道具展！

人気のコレクションより、名品を一堂に。

永青文庫のコレクションのなかでも、不動の人気を誇る茶道具。7年ぶりの茶道具展となる本展では、千利休・細川三斎ゆかりの茶道具を中心に、名品を一堂に紹介します。

◆茶道具入門としても最適。

茶の湯に欠かせない道具を解説します。

永青文庫には、細川家に伝来した様々な茶道具が所蔵されています。今回はその膨大なコレクションより、茶碗、茶杓、釜など、道具ごとに展示するコーナーを設け、分かりやすく解説。敷居が高いイメージのある茶の湯の世界ですが、茶道具を知らない方でも楽しめる展覧会です。

◆初公開の文書や特別展示も。

茶道具以外にも見どころ満載の展覧会！

本展では、2021年に発見された「花伝書抜書」紙背文書を初公開するほか、これまでほとんど紹介する機会がなかった沢庵宗彭の墨蹟を特別に展示します。茶道具以外にも見どころ満載の内容です。



「茶杓 銘 ゆがみ」
千利休作 桃山時代（16世紀）
永青文庫蔵



「呼継茶碗」
桃山～江戸時代（16～17世紀）
永青文庫蔵

【展覧会に関するお問い合わせ】

公益財団法人 永青文庫

〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1

TEL: 03-3941-0850 FAX: 03-3943-0454



関連企画

◆「細川家の茶道具」展×ホテル椿山荘東京 料亭「錦水」 『茶室「残月」特別観覧付き昼食会』<1日限定開催>

【日時】2023年6月12日（月）10：30～14：00（予定）

・10：30～11：30

永青文庫「細川家の茶道具」展を貸切で見学

・11：45～14：00（予定）

ホテル椿山荘東京 国指定有形文化財茶室「残月」（利休創案茶室写し）にて、茶室見学と当日イベント限定・永青文庫理事長細川護熙の作品を特別観覧後、料亭「錦水」でお食事

※永青文庫からホテル椿山荘東京へは徒歩でご移動いただきます（約10分）

【料金】一般：14,500円 THE FUJITA MEMBERS会員：13,500円

※ Web予約限定

※ 永青文庫観覧料・お食事（松花堂弁当）・税金・サービス料込

【定員】30名様



【お問合せ】ホテル椿山荘東京

TEL 03-3943-5489（予約センター）

※イベントの詳細については、
ホテル椿山荘東京ホームページを
ご確認ください



令和5年度初夏展「細川家の茶道具 一千利休と細川三斎一」
広報画像申請書

2023年 5月20日(土)～ 7月17日(月・祝)

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

ご所属:

TEL:

FAX:

ご住所:〒

E-mail:

掲載予定日: 年 月 日

掲載概要:(コーナー名、画像の掲載サイズ など)

□読者プレゼント用チケット(5組10名様)ご希望の場合はチェックを付けてください。

※6月17日までにご紹介頂ける場合に限らせて頂きます。※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。



1.「細川三斎(忠興)像」
寛文10年(1670) 永青文庫蔵
【展示期間:5/20(土)～6/18(日)】



2.「竹二重切花入」
細川三斎作
桃山～江戸時代(16～17世紀)
永青文庫蔵



3.「瓢花入 銘 顔回」
千利休作 桃山時代(16世紀)
永青文庫蔵



4. 重要美術品「唐物尻彫茶入 利休尻ふくら」
南宋～元時代(13～14世紀) 永青文庫蔵



5.「黄天目 珠光天目」
元～明時代(14～15世紀)
永青文庫蔵



6.「呼継茶碗」
桃山～江戸時代(16～17世紀)
永青文庫蔵



7.「放下着」
沢庵宗彭筆 江戸時代(17世紀) 永青文庫蔵



8.「古田謙部書状」
細川忠興(三斎)宛 桃山時代(16世紀) 永青文庫蔵



9.「志野茶釜 忘れ雪」
細川護熙作 平成20年(2008年) 個人蔵

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。

※展覧会名、会期、会場、作品名称、展示期間、所蔵者を必ずご掲載ください。

※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみに使用いたします。

許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。